

各 位

三重県病害虫防除所長

平成 30 年度病害虫発生予報第 1 号

ページ

1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	10
5. 気象のデータ	11
6. おしらせ	13

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生時期は**やや早**、発生量は**少**と予想され
ます。

コムギでは、赤かび病の発生量は**平年並**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病の発生量は**平年並**と予想されます。ミカン
ハダニの発生量は**やや少**と予想されます。

ナシでは、黒星病、赤星病、ハダニ類、アブラムシ類の発生量は**平年並**と予想
されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。越冬量が多
いため、圃場内をよく見回り、早期発見に努めてください。防除は飛来を確認
してから実施してください。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は**やや多**と予想されます。多発状況であ
れば摘採前日数に注意して防除してください。チャノホソガの発生量は**やや多**と予
想されます。病害虫防除所ホームページのフェロモントラップ誘殺状況を参考に
してください。クワシロカイガラムシ、チャノコカクモンハマキの発生量は**平年並**と
予想されます。チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生は**やや多**と予想されます。ほ場の発生状況の確
認に努め、早期に防除を行って下さい。

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

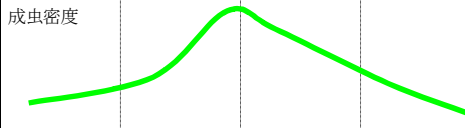
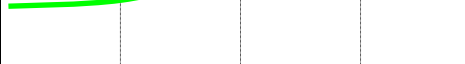
農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 近年、発生量が少ないので移植後、発生の状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。
コムギ	赤かび病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第1号(4月3日発表)、第2号(4月6日発表)。 2) 開花期から乳熟期にかけて感染するので、開花最盛期が防除適期です。開花前の薬剤散布は防除効果が劣ります。 3) 出穂および開花状況を把握し、適期防除を行ってください。 4) 曇雨天が続くと被害は増加するので天候の推移に注意し、曇天または降雨が続く場合は追加防除を行ってください。
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 発芽期の防除を実施することで、その後の発生を抑えることができます。 2) 新葉に病斑が見られる圃場では、その後果実へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。
	かいよう病	—	温州平年並 中晩柑平年並	温州小 中晩柑中	温州低 中晩柑普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果へと感染していくので、初期の予防散布がポイントです。 2) 越冬病斑が多い圃場では、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去し、圃場外で処分してください。 3) 3～4月に防除を実施していない圃場では、5月に防除を実施してください。
	ミカンハダニ	—	やや少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 冬期にマシン油乳剤を散布していない圃場では、新梢伸長期に急増することがあるので注意してください。 2) 発生量は圃場によるばらつきがあるので、発生状況をよく観察してください。 3) 成虫が1葉当たり0.5～1.0頭になったら防除を計画してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 昨年の発生が多かった圃場では、天気予報の降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。 2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。
	赤星病	—	平年並	小	普通	ビャクシン類の冬孢子発芽		ナシの発病		<ul style="list-style-type: none"> 1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が飛散して、ナシに感染します。 2) 病原菌は雨滴によって飛散し、主に降雨中に感染します。
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 発生が見られる圃場では、低密度のうちに防除してください。
	アブラムシ類	—	平年並	小	普通	ナシノアブラムシ	ナシミドリオオアブラムシ	ワタアブラムシ ユキヤナギアブラムシ		<ul style="list-style-type: none"> 1) 初期の寄生を見つけることが重要です。 2) 寄生葉付近はアリが活発に活動していることがあるので、発見の目安になります。
果樹共通	カメムシ類	—	やや多	中	普通	トラップ誘殺数	ツヤアオカメムシ	チャバネアオカメムシ		<ul style="list-style-type: none"> 1) 本年は越冬量がやや多く、初夏までの圃場への飛来はやや多いと考えられます。 2) 山林に近い圃場や過去に多数飛来があった圃場では、飛来に注意してください。 3) 果樹カメムシ類は、4月はウメ、5月はナシ、ビワ、モモに飛来します。 4) 防除は圃場及び圃場周辺(街灯への夜間飛来など)への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。 5) 一旦飛来すると連続して飛来することが多いので、防除実施後も注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	4月	5月			
								下旬	上旬		中旬	下旬
チャ	カンザワハダニ	—	やや多	中	普通					1) 一番茶摘採後圃場を確認して、多発状況であれば摘採前日数に注意して防除してください。 2) 葉裏に生息していますので、葉裏に十分かかる様に薬剤をいねいに散布してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。 4) 天敵への影響の小さい薬剤を選択してください。		
	チャノホソガ	—	やや多	小	普通					1) 新芽に産卵します。若齢幼虫の多発が認められた圃場では防除しましょう。 2) 病害虫防除所のホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。		
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	低					1) 新芽の葉柄基部や未展開葉の内側などを吸汁加害します。 2) 新芽の伸長と共に発生量が増加します。		
	クワシロカイガラムシ	—	平年並	中	普通					1) 4月13日現在の有効積算温度による予測式では、孵化最盛日は5月16日で平年(亀山10年平年値 5月18日)よりやや早く、防除適期は5月第5半旬頃と予想されます。なお、今後の温度変化により防除適期は変化しますので、ご注意ください。 2) 天敵保護のために、天敵への影響が小さい薬剤を選択してください。 3) 孵化時期に散水により枝幹を濡らすことで歩行型幼虫の固着を防ぐ効果があります。		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
						4月	5月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
チャ	チャノコカクモンハマキ	—	平年並	小	普通	成虫密度					<p>1) 幼虫は孵化数日後に葉を2～3枚綴るようになるので、葉が効きにくくなります。孵化直後の若齢幼虫を対象に防除してください。</p> <p>2) 例年、越冬世代成虫の発生最盛期は5月第2半旬です。この7～15日後の幼虫孵化期(5月中下旬頃)が防除適期です。</p> <p>3) 病害虫防除所のホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載しているので参考にしてください。</p>
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	中	普通	成ダニ密度					<p>1) 圃場によって発生にばらつきがあります。こまめに圃場を観察し、発生状況を確認してください。</p> <p>2) 葉液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。</p> <p>3) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。</p> <p>4) 薬剤散布の際は、収穫前日数と総使用回数を遵守するとともに、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して、薬剤の選択を行ってください。</p>

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (発生時期+) 2) 予察灯(4月第1半旬～第3半旬)では、未飛来(平年5月2日初飛来)と平年並 (発生時期±) 3) 予察灯(昨年7月第1半旬～9月第2半旬)では、誘殺数は102頭(平年160.6頭)とやや少 (-) 4) 巡回調査圃場(昨年8月)では、発生圃場率4.2%(平年11.8%)と少、払い落とし虫数は0頭(平年0.4頭)と少 (-) <p>考察: 今後の気象条件から、発生時期は平年よりやや早いと考えられます。また、昨年の予察灯及び巡回調査結果から越冬成虫の予想発生量は少と考えられます。</p>
コムギ	赤かび病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月12日発表)によると、開花期と予想される4月中下旬以降の気温は高く、降水量は平年並の予想 (+) 2) 作況試験田(11月10日播種・品種あやひかり・松阪市)では、出穂期は4月9日(平年4月11日)と平年並 (±) 3) 一般圃場では、播種時期が遅いものは生育が遅れており、適期播種のものとは昨年より出穂始まりが早い (±) <p>考察: 一般圃場を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (+) 2) 巡回調査圃場(4月第1～2週)では、旧葉発病度0.03(平年0.0)と平年並 (±) 3) 一般圃場での発生量は平年並 (±) <p>考察: 今後の気象条件および一般圃場の発生状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (+) 2) 県予察圃(中晩柑類)では、発病葉率38.9%(平年38.5%)と平年並 (±) 3) 巡回調査圃場(4月第1～2週)では、温州みかんでは旧葉発病度0(平年0.2)と平年並、中晩柑類では旧葉発病度6.0(平年8.9)とやや少 (-) 4) 一般圃場での発生量は平年並 (±) <p>考察: 今後の気象条件、県予察圃、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量は温州みかん、中晩柑類ともに平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	カンキツ ミカンハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (＋)</p> <p>2) 県予察圃(4月上旬)では、100葉当り雌成虫寄生頭数は、無防除区 12.2頭(平年 95.1頭)と少、慣行防除区 1.1頭(平年 3.4頭)と少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第1～2週)では、寄生葉率 2.5%(平年 6.1%)と少、寄生虫数/葉は 0.14頭(平年 0.26頭)とやや少(－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (－)</p> <p>考察: 今後の気象条件、県予察圃、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量は温州みかん、中晩柑類ともにやや少と考えます。</p>
	黒星病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (＋)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1～2週)では、発病芽率 0%(平年 0%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察: 巡回調査結果、一般圃場の発生状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (＋)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1～2週)では、発病葉率 0%(6年平均 0%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察: 巡回調査結果、一般圃場の発生状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (＋)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1～2週)では、寄生葉率 0%(6年平均 0%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	アブラムシ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (＋)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第1～2週)では、寄生枝率 0%(8年平均 0.3%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹 共通	カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯(御浜町4月1日～10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ6.0頭(平年4.4頭)とやや多、ツヤアオカメムシ241.0頭(平年6.7頭)と多 (+) 2) 予察灯(畑・松阪市4月第1半旬～第3半旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭(平年0頭)、ツヤアオカメムシ0頭(平年0頭)といずれも平年並 (±) 3) 県予察圃フェロモントラップ(御浜町4月1～10日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は2.6頭(平年2.0頭)と平年並、ツヤアオカメムシ1.6頭(平年0.4頭)と多 (+) 4) フェロモントラップ(4月1～5日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)55頭(平年6.0頭)と多、中間地(津市白山町二本木)23頭(平年3.4頭)と多、平坦地(松阪市嬉野川北町)0頭(平年0.1頭)と平年並 (±) 5) 昨年度のフェロモントラップ(平成29年10月1日～11月30日)ではチャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)492頭(平年346.7頭)とやや多、中間地(津市白山町二本木)103頭(平年57頭)と多、平坦地(松阪市嬉野川北町)40頭(平年27.1頭)と多 (+) 6) チャバネアオカメムシの越冬量は、8.3頭/地点(平年4.6頭)と多、クサギカメムシの越冬量は、52.0頭/地点(平年52.2頭)と平年並 (±) 7) 巡回調査圃場(4月第1～2週)では、カンキツ圃場への飛来は未確認 (—) <p>考察： 昨年度秋以降の越冬世代の発生量はやや多と考えられ、越冬量もやや多いことから、今後の圃場への飛来数の予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャ	カンザワハダニ	—	やや多
	チャノホソガ	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (+) 2) 県予察圃では、萌芽日は4月2日(平年4月8日)と早、初飛来は3月12日(平年3月20日)と早、フェロモントラップ(3月第3半旬～4月第2半旬)では誘殺数665.0頭(平年249.3頭)と多で産卵は未確認 (±) 3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、新芽への産卵を確認 (+) 4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+) <p>考察： 一般圃場の状況を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (＋)</p> <p>2) 県予察圃(3月第6～第2半旬)では、黄色粘着トラップ捕殺数 166.5 頭(4年平均 225.77 頭)とやや少の傾向 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、叩き落とし虫数 0 頭(平年 1.8 頭)と少 (－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生は未確認 (－)</p> <p>考察：今後の気象状況、県予察圃の状況を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (＋)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、雌成虫寄生株率 9.8%(平年 14.3%)とやや少 (－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多 (＋)</p> <p>考察：今後の気象状況、巡回調査圃場の状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノココクモンハマキ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (＋)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第1～第2半旬)では、誘殺数 19.3 頭(平年 19.4 頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、ハマキムシ類巻葉数 0.1 枚/m²(平年 0.4 枚/m²)と少 (－)</p> <p>4) 一般圃場では、ハマキムシ類の発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：県予察圃および一般圃場の状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月12日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並の予想 (＋)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生株率 21.5%(平年 12.8%)と多、寄生程度 14.9%(平年 6.4%)と多 (＋)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並～多(概してやや多) (＋)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、減少の要因がないことから引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

				平年値 ↓		
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」「平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除が必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 30 年 4 月 12 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多い見込みです。期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

1 週目 4 月 14 日 ~ 20 日	天気は数日の周期で変わり、期間のはじめと中頃には前線や低気圧の影響で雨の降る日がある見込みです。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2. 1 日・4. 3 日
2 週目 4 月 21 日 ~ 27 日	天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。日本付近には西から暖かい空気が流れ込みやすい見込みです。	同 2. 0 日・4. 3 日
3~4 週目 4 月 28 日 ~ 5 月 11 日	天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	同 4. 6 日・8. 1 日

東海地方週間天気予報 (平成 30 年 4 月 16 日 10 時 33 分 名古屋地方気象台発表)

予報期間 4 月 17 日 ~ 4 月 23 日

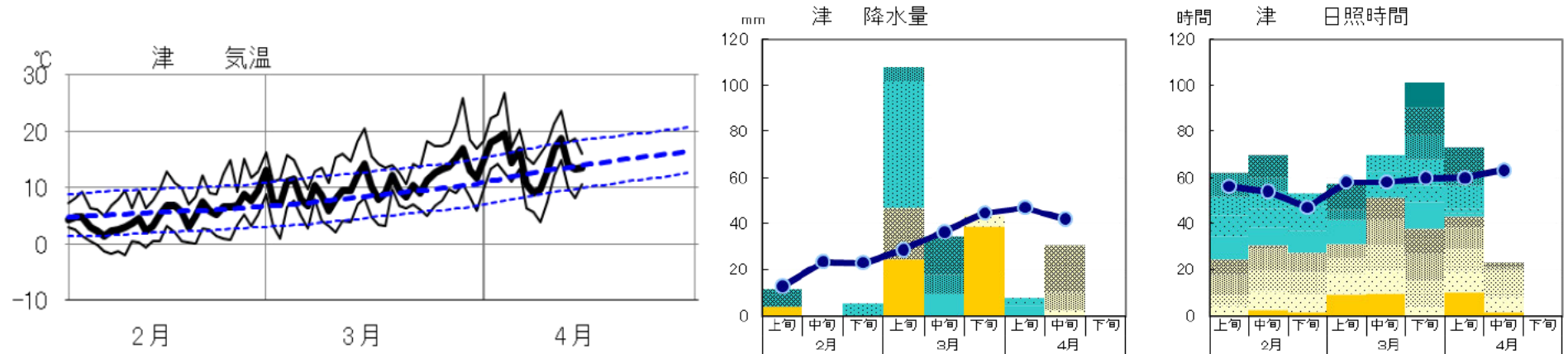
向こう1週間は、17日から18日にかけて日本の南海上の前線の影響で雨が降りますが、その後は高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みです。

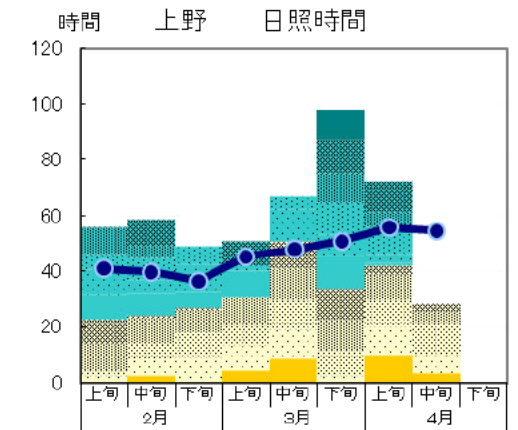
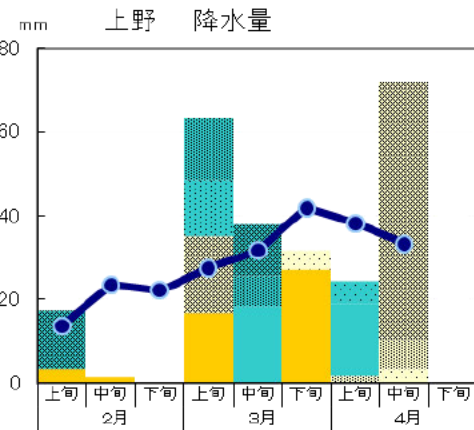
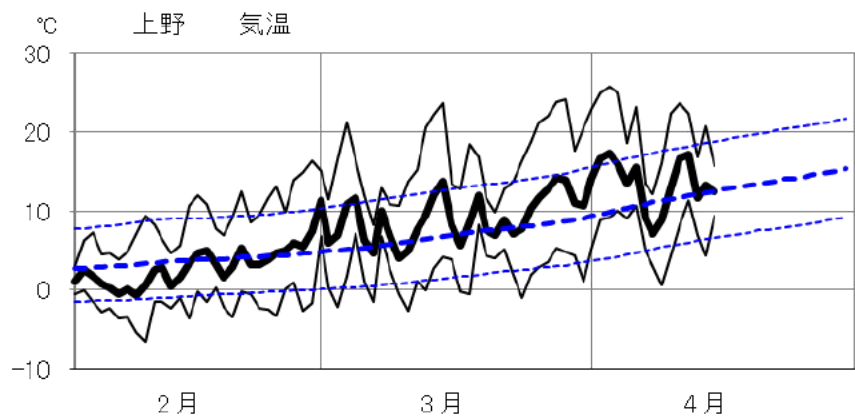
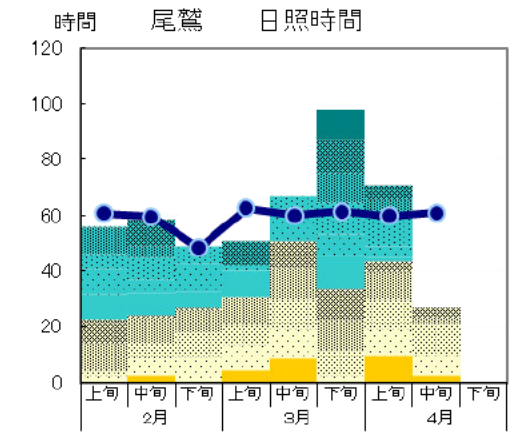
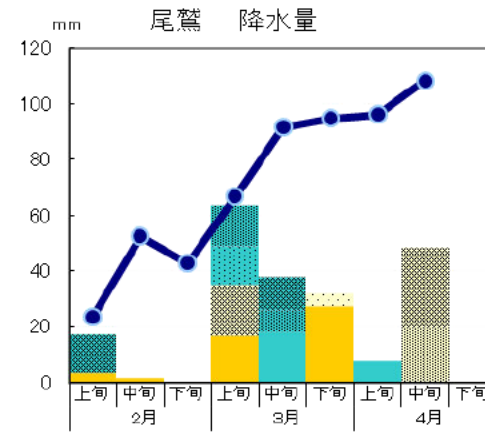
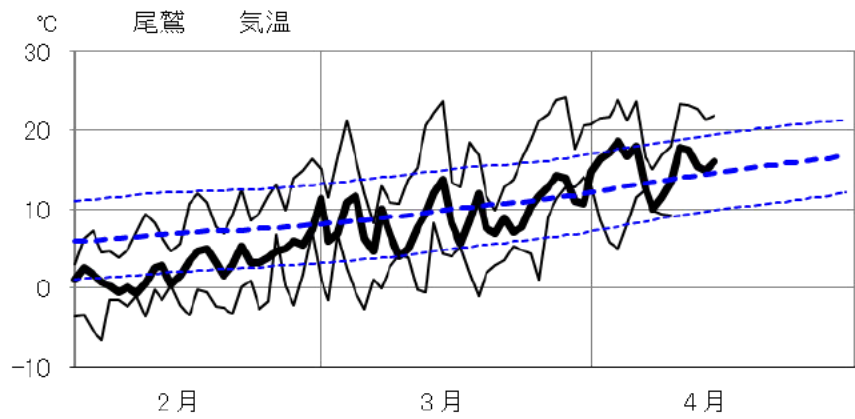
最高気温は、おおむね平年より高く、期間の中頃からはかなり高い日もあるでしょう。

最低気温は、期間の前半はおおむね平年並ですが、後半は平年より高い見込みです。

降水量は、平年並でしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (4 月 15 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 平年平均
- - - 平年最高
- - - 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

三重県病害虫防除所

6. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回	4月19日(今回)	第2回	5月24日(木)
第3回	6月21日(木)	第4回	7月19日(木)
第5回	8月23日(木)	第6回	10月25日(木)
第7回	3月20日(水)		

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000625689.pdf>

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産園芸課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>